次は大法寺です/この山の麓にある

左手前方が大法寺本堂

国宝大法寺三重塔 青木村郷土美術館 案内図

観音堂内

重文　大法寺厨子および須弥壇
重文　木造十一面観音立像

本堂

大佛寺

前方が観音堂方面

奉
南無十一面観世音菩薩

正面は観音堂、左手に三重塔が見える

観音堂

文化財愛護
重要文化財
大法寺 観音堂

大法寺観音堂
このお堂の本尊は十一面観音菩薩で脇侍の普賢菩薩と共に
重要文化財の　指定を受けている平安中期（藤原時代）の
作である。桂の一木造りで彫眼でお丈は１７１糎で信州の
古い仏様の一つである。お厨子も重要文化財で唐様（禅宗
様式）で棟の鴟はわが国最古の鴟である。須弥壇も重要文
化財で鎌倉時代の作である。

厨子と須弥壇（重文）

観音堂内におかれた厨子で、本尊の十一面観音像を安置してある。時代は鎌倉の末期から南北朝の作という。

真反りの軒が強くはね上がり、軒裏の詰組に特徴があり、扉は桟唐戸の禅宗様式の厨子である。

また棟の両端に食いついた木彫りの鯱は、珍しい例で、日本最古の鯱である。

厨子を置く須弥壇は、同時代のもので、高欄の束に蓮の彫模様があり、格狭間の形式など鎌倉時代の様式を伝えている。

木造十一面観音立像（重文）

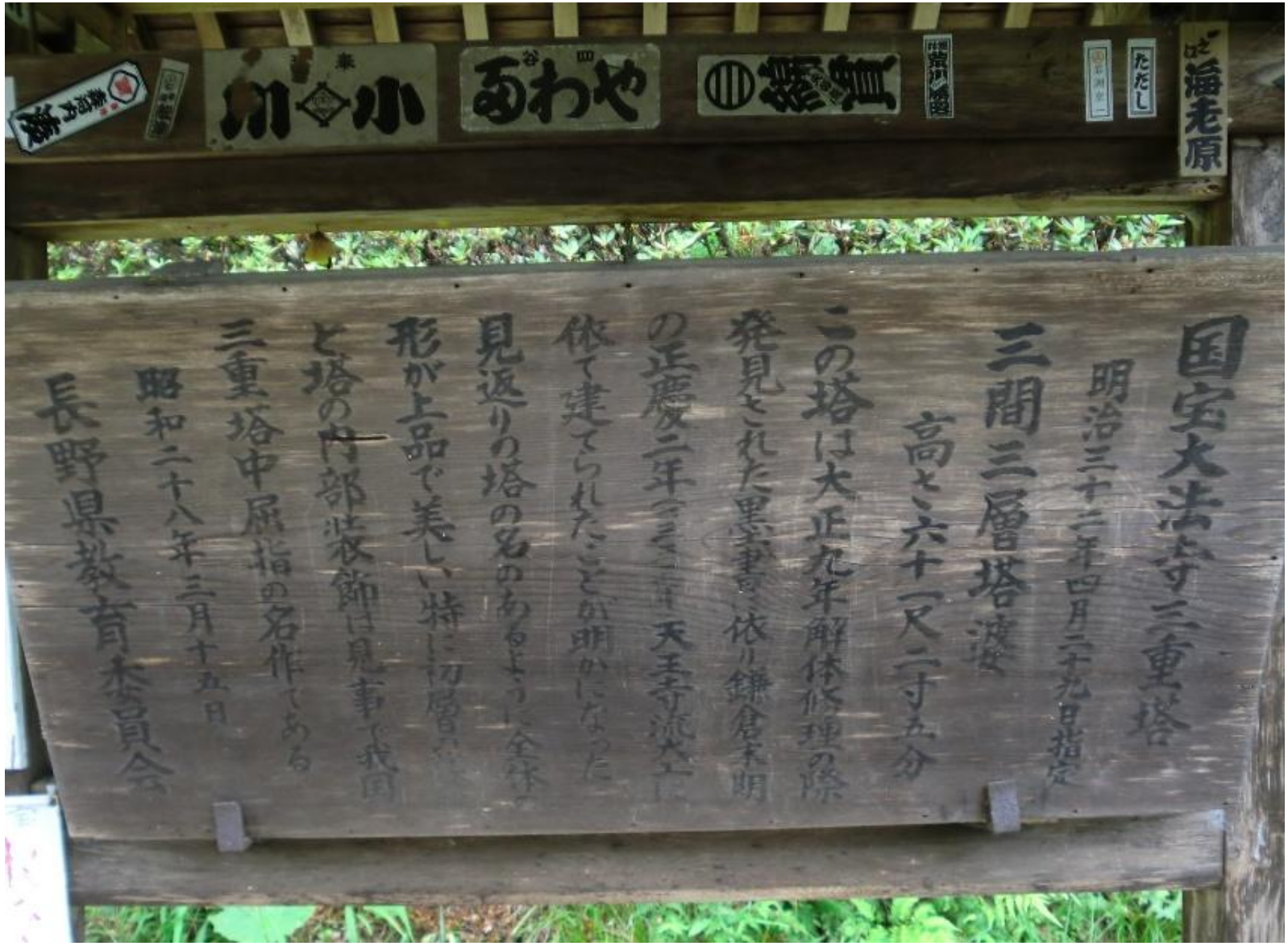
像高一七一㎝、観音堂の本尊で、桂の一木彫りの像は、切株に蓮弁を陰刻した台座の上に立っている。タマゴ形の顔、ふっくらしたほほ、古風で優雅な、貞観時代（八五九～八七六）に流行した量感のあふれる像で、当地方作としては最も古い仏像である。

木造普賢菩薩立像（重文）

本尊の十一面観世音の脇侍仏で、本尊と同時代にできた仏像と考えられている。

像高一〇七㎝桂の一木彫り、彫り方、肉付け、衣文等、十一面観音によく似た仏像である。

三重塔/鎌倉時代末/国宝


海老原
たたし
やわら
小川
国宝大法寺三重塔
明治三十二年四月二十九日指定
三間三層塔婆
高さ六十一尺二寸五分
この塔は大正九年解体修理の際
発見された墨書に依り鎌倉末期
の正慶二年（一三三三年）天王寺流大工
依て建てられたことが明かになった
見返りの塔の名のあるように全体
形が上品で美しい特に初層の
と塔の内部装飾は見事で我国
三重塔中屈指の名作である
昭和二十八年三月十五日
長野県教育委員会

塔の組物は全部「三手先」にするのが普通なのに、この塔では一階を「二手先」にしているとのこと

三階の扉の上部を注意すると、板壁のところに白い色が残っているのがわかるが、これはこの塔がつくられた当時は、塔全体が朱色(所によっては緑色)にぬられていて、その下にのった「胡粉」と呼ばれる塗料が残っているのだとのこと

ここも紫陽花が綺麗であった

変わった形の板碑（板石塔婆）

石造の祠/流造

青木村郷土美術館

栗林一石路句碑
国宝 大法寺
見返りの塔に抱かれて静寂の彩空間
青木村
郷土美術館
HomeTown Museum of Aoki
郷土ゆかりの作品を展示中
休館日／月曜日・祝日の翌日
入館料／一般200円・学生150円・子供100円
喫茶室ございます

青木村
A O K I
修那羅の石仏
子檀嶺岳
1223m
143
アイリスの郷
大法寺(国宝)
青木村郷土
美術館
十観山
1284m
道の駅 あおき
くつろぎの湯
田沢温泉
浦
野
川
常
楽
寺
安楽寺国宝
夫神岳 1260m
沓掛温泉
別所温泉
リフレッシュ
パークあおき
北向観音
保福寺峠